

**平成 30 年度
看護実践研究指導事業報告**

I. 本事業の目的と実施概要

本事業の目的と実施概要

I. 本事業の目的

平成13年度から引き続き、県内看護職が大学の知的資源を利用して自己学習や業務改善ができるようにすることを目指し、看護の実践研究指導・研修の事業として取り組んだ。

事業の実施に際しては、単に研修や指導を行うのではなく、県内看護職の現状を把握して、現場の実態に即応した適切な指導・研修の方法を模索しながら行うこととし、現職者自身による問題解決を促進していくことを重視している。他方、大学としては、これらの活動をする一方で、今後の学部・大学院教育の充実を図り、特色ある活動を導くことを念頭においている。

研修方法は、教員が対象に合わせて創出することとしているが、①教員が看護職者の現場に出向いて現状を把握し、②看護職者や看護実践の実態に応じた指導・研修方法を開発しながら取り組むもので、③看護職者自身の主体的な問題解決を促すことを重視してきている。また、看護職者の主体的な実践研究の実施を奨励すること、岐阜県という広範な地域を視野に入れてケアサービスの質向上を目指すこと、課題解決に向けた方策を研修受講者同士が話し合っ創出すること、少人数配置など研修機会が得られがたい看護職者を対象にした研修を企画・実施すること、研修機会を通じた他施設との交流や看護職者同士のネットワークづくり等にも留意してきている。

II. 今年度の実施事業

本事業には、大学と岐阜県内の看護実践現場の看護職者との連携や組織的関係を強化するという観点から、看護研究センターの教員が本事業の全体的な調整や報告書の取りまとめを担当している。

今年度は、以下の表に示したとおり、8事業（新規2事業、継続6事業）に取り組んだ。

表1 平成30年度看護実践研究指導事業一覧

No.	開始年度	事業名	担当者
3001	平成15年度 (16年目)	岐阜県看護実践研究交流会への研究支援	看護研究センター： 大川眞智子、松下光子、田辺満子、小森春佳
3002	平成24年度 (7年目)	利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	地域基礎看護学領域： 藤澤まこと、加藤由香里、渡邊清美、 杉野緑、黒江ゆり子 機能看護学領域：橋本麻由里 看護研究センター：田辺満子 岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課：若原明美
3003	平成25年度 (6年目)	地域における母子保健活動の充実に向けた研修会	育成期看護学領域： 布原佳奈、服部律子、名和文香、 山本真実、武田順子、松山久美、 田中真理、澤田麻衣子 看護研究センター：小森春佳
3004	平成27年度 (4年目)	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	機能看護学領域： 両羽美穂子、橋本麻由里、古澤幸江 水野優子、安田みき、梅村恭子 看護研究センター：田辺満子
3005	平成28年度 (3年目)	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	育成期看護学領域：服部律子 地域基礎看護学領域：藤澤まこと、黒江ゆり子 成熟期看護学領域：奥村美奈子、布施恵子 機能看護学領域：橋本麻由里
3006	平成28年度 (3年目)	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	育成期看護学領域：長瀬仁美、山本真実 機能看護学領域：松本訓枝

3007	平成 30 年度 (1 年目)	医療的ケアを必要とする子どもの放課後等児童デイサービスにおける実践活動の充実を目指した研修会	育成期看護学領域： 山本真実、服部佐知子、澤田麻衣子、 湯澤美由紀、森裕美子 地域基礎看護学領域： 杉野緑、日比野直子、高橋智子
3006	平成 30 年度 (1 年目)	岐阜県における End- of -Life Care 充実に向けた研修会	成熟期看護学領域： 奥村美奈子、布施恵子、宇佐美利佳、 鳴海叔子、橋本薫衣

Ⅲ. 今年度の事業運営

年度当初の 4 月 23 日（月）正午を締め切りとして学内から事業募集を行った。

その結果、今年度は「岐阜県看護実践研究交流会への研究支援」（16 年目）、「利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援」（7 年目）、「地域における母子保健活動の充実に向けた研修会」（6 年目）、「看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援」（4 年目）、「専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会」（3 年目）、「養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会」（3 年目）の 6 つの継続事業と新たに「医療的ケアを必要とする子どもの放課後等児童デイサービスにおける実践活動の充実を目指した研修会」「岐阜県における End- of -Life Care 充実に向けた研修会」の 2 つの新規事業の計 8 事業が申請された。

5 月 10 日（木）13 時から開催された第 1 回看護研究センター運営委員会で各事業の計画と予算が審議された結果、8 事業とも承認され、事業開始となった。各事業の予算は表 3 のとおりである。

表 2 平成 30 年度看護実践研究指導事業の予算

No.	代表者	事業名	事業経費			
			賃金	旅費	消耗品費等	合計
3001	大川真智子	岐阜県看護実践研究交流会への研究支援	36,000	30,000	180,000	246,000
3002	藤澤まこと	利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	193,500	137,459	459,600	790,559
3003	布原佳奈	地域における母子保健活動の充実に向けた研修会	72,000	153,000	222,396	447,396
3004	両羽美穂子	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	54,000	21,534	129,312	204,846
3005	奥村美奈子	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	50,400	25,000	57,160	132,560
3006	長瀬仁美	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	18,000	12,000	51,200	81,200
3007	山本真実	医療的ケアを必要とする子どもの放課後等児童デイサービスにおける実践活動の充実を目指した研修会	18,000	7,500	107,360	132,860
3008	奥村美奈子	岐阜県における End- of -Life Care 充実に向けた研修会	27,000	10,000	184,864	221,864
小計			468,900	396,493	1,391,892	2,257,285
共通	報告書印刷費、共通消耗品費等		0	0	300,000	300,000
合計			468,900	396,493	1,691,892	2,557,285

今年度の事業別の研修実施状況を表 3 に示した。

月別にみると、8 月に 2 つ、9 月に 3 つ、10 月に 3 つ、11 月に 2 つ、2 月に 1 つ、3 月に 2 つの計 13 の研修会が開催されている。会場は学外が 2 つで、それ以外はすべて学内で開催されている。

研修会ではなく個別訪問面接研修という実施方法をとっている事業は「岐阜県看護実践研究交流会への研究支援」のみである。

表3 事業別の研修実施状況

No.	事業名	今年度の実施状況
3001	岐阜県看護実践研究交流会への研究支援	平成30年度は、8題（29年度申請分3題、30年度申請分5題）の研究課題について支援を行った。
3002	利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	退院支援教育プログラム研修2018 【ベーシック・フォローアップ研修】 開催日：平成30年8月29日（水） 場所：岐阜県立看護大学 参加者：ベーシック研修70名 フォローアップ研修40名 【アドバンス研修】 〈第1回〉平成30年8月29日（水） 〈第2回〉平成30年9月27日（木） 〈第3回〉平成30年11月28日（水） 場所：岐阜県立看護大学 参加者：17名
3003	地域における母子保健活動の充実にに向けた研修会	地域における母子保健活動の充実にに向けた研修会 【第1回 妊娠期からの切れ目ない母子支援ー岐阜県の目指すところ/海外での母子支援システムー】 開催日：平成30年11月19日（月） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：49名 【第2回 周産期メンタルヘルスと飛騨地域での母子支援】 開催日：平成31年3月18日（月） 場所：飛騨・世界生活文化センター 参加者数：36名（事前申込人数）
3004	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	看護の専門性を高めるマネジメントについて考えるワークショップ 【新任期看護師対象】 開催日：平成30年9月12日（火） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：22名 【中堅期看護師対象】 開催日：平成30年10月31日（水） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：37名
3005	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	【研修会テーマ：CNSの6つの役割発揮と看護の質改善のコツ～組織とのwin-winを目指して】 開催日：平成30年10月14日（日） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：19名
3006	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	【第1回】 開催日：平成30年10月20日（土） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：27名 【第2回】 開催日：平成31年3月2日（土） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：22名
3007	医療的ケアを必要とする子どもの放課後等児童デイサービスにおける実践活動の充実に目指した研修会	【医療的ケアを必要とする子どもの放課後等デイサービスにおける実践活動の充実に目指した研修会】 開催日：平成30年9月25日（火） 場所：岐阜市文化産業交流センター じゅうろくプラザ 参加者数：24名
3008	岐阜県におけるEnd-of-Life Care充実にに向けた研修会	【岐阜県のEnd-of-Life Care充実にに向けた研修会】 開催日：平成31年2月2日（土） 場所：岐阜県立看護大学 参加者数：25名

また、各事業の代表者および看護研究センター教職員が出席する「代表者等会議」を5月と12月の2回開催した（表4）。

5月の会議は、第1回看護研究センター運営委員会の前日にあたる5月9日（水）17時より開催し、今年度の事業目的・計画の共有及び検討を行い、予算配分の調整を図った。12月13日（木）17時より開催した第2回の会議では、中間報告として、今年度の実施内容・成果・課題等を確認・共有し、今後の取組みに向けて協議した。

表4 代表者等会議の開催概要

日程	参加者	内容
第1回 5月9日（水） 17:00～18:50	代表：奥村教授、藤澤教授、両羽教授、 布原准教授、山本准教授、長瀬准教授、 大川准教授 看護研究センター：黒江センター長、会田教授、 田辺教授、松下教授、小澤准教授、小森助教	・昨年度の予算執行状況報告 ・今年度の各研修の目的・計画の報告、充実に向けた検討 ・予算配分の検討・調整 ・報告書の別刷に関する検討 ・ホームページの活用についての検討
第2回 12月13日（木） 17:00～18:45	代表：奥村教授、藤澤教授、両羽教授、 布原准教授、山本准教授、長瀬准教授、 大川准教授 看護研究センター：黒江センター長、会田教授、 田辺教授、松下教授、小澤准教授、小森助教	・今年度の実施内容、予算執行状況、看護職者の反応、成果・課題の報告 ・次年度の活動の方向性などの検討 ・報告書原稿の執筆要領の検討 ・ホームページの活用についての検討 ・リポジトリへの登録についての検討

本事業の実績と成果を明示するために、平成21年度からは本事業報告書をPDF化し、本学ホームページにて公表してきたが、27年度から本事業報告書を本学リポジトリで公開することを開始し、倫理面に関して十分に配慮するよう執筆要項に明示するとともにリポジトリでの公開にあたって事業ごとに3～5個のキーワードを付けてもらっている。

事業ごとの自己点検評価は、①実践の場に与えた影響、②本学の教育・研究活動に与えた影響、③看護職の生涯学習ニーズ、④事業実施上の困難な点・課題、⑤今後の発展の方向性の5点である。

IV. FD研修会の開催

29年度に本事業で実施した研修の16ヵ年の実績をとりまとめた冊子を400冊印刷・刊行して学内外に配布し、この冊子をもとにして年度末に看護研究センターと教育能力開発委員会の共同企画で『看護実践研究指導事業のこれから』をテーマにしたFD研修会を開催した。今年度も同じテーマで29年度の議論を継続することとし、3月6日（火）13時から15時までFD研修会を開催した。

今年度の研修会では、すでに終了した2つの事業と今年度から開始している事業を1つ選定し、事業担当教員から各事業について、取組開始の経緯、趣旨・目的、取組内容等を紹介してもらった後、看護実践研究指導事業の取組内容・方法等について考えたこと、看護職者の支援ニーズは何か、今後新たに必要と考えられる看護実践研究指導事業の取組は何か、等をグループワーク形式で意見交換した。当日のプログラムは表5のとおりである。

表5 FD研修会のプログラム

時間	内容
13:00～13:05	研修会の趣旨および進行の説明
13:05～13:50	事業紹介（各15分、計45分） ①県内の過疎地域診療所等の看護職者への研修：H13～H18年度 ②県内の高齢者ケア施設の看護職者への研修：H13～H21年度 ③岐阜県におけるEnd-of-Life Care 充実に向けた研修会：H30年度～
14:00～15:00	グループワーク（60分） 事業報告を聞いて看護実践研究指導事業の取組内容・方法等について考えたこと、看護職者の支援ニーズは何か、今後新たに必要と考えられる看護実践研究指導事業の取組は何か、等を意見交換する。